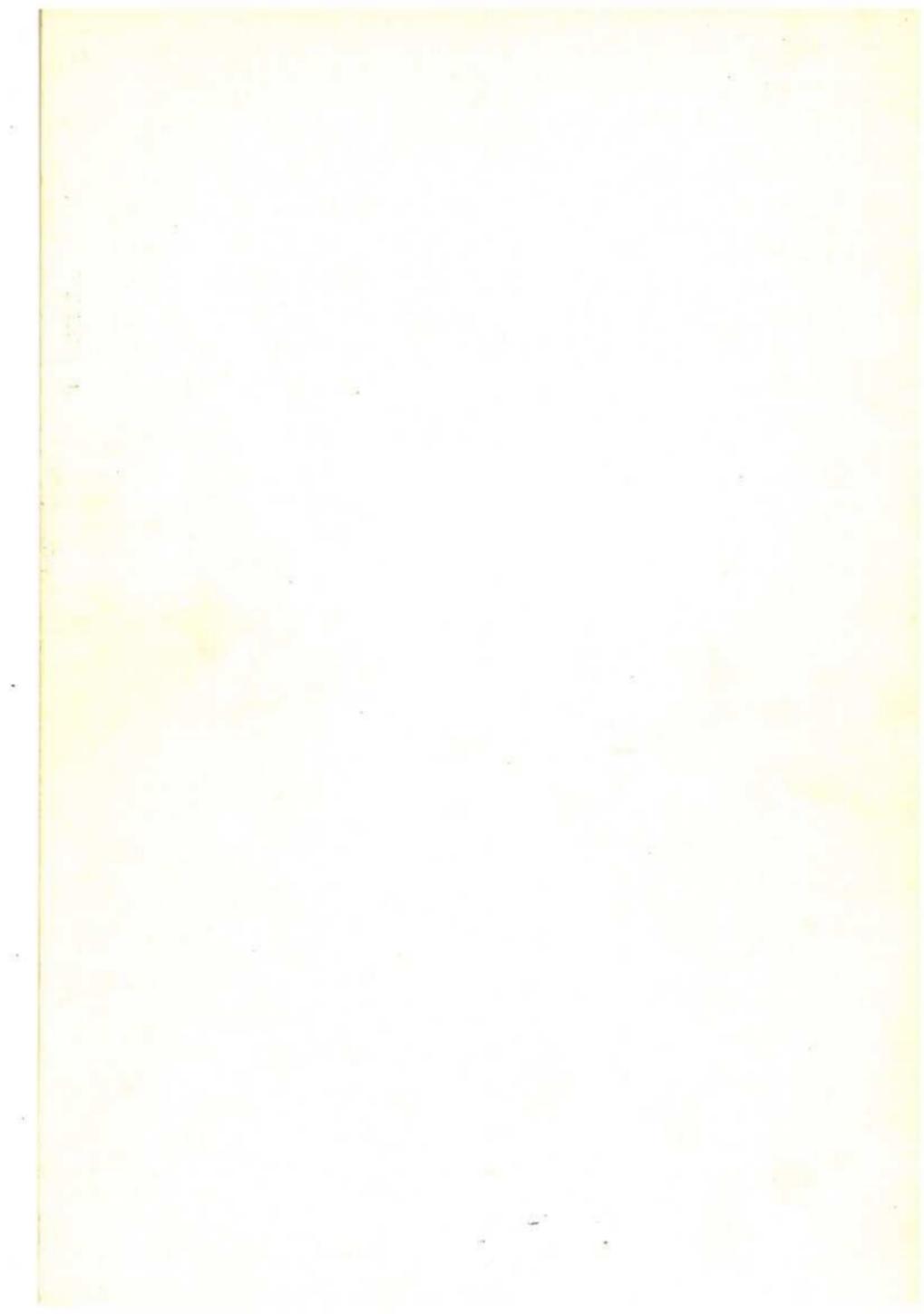


二級河川太田川中小河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

掛川市教育委員会

文化係



二級河川太田川中小河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1990

掛川市教育委員会

序にかえて

市民がお互に学びあいながら省せになることを願って推進してきた生涯学習計画も10年を経過しました。この間にあって掛川市はかつてない大きな行政成果がもたらされました。しかし積み残してきた課題も多くあることからこれからは生涯学習計画パートⅡへと引き継がれ、実現に向けて努力を重ねております。

さて、人間の住むところはどこを掘っても遺跡が包蔵されていると言っても過言ではありません。この発掘調査の多くは開発事業に伴う緊急調査であるために開発主導で行われております。

埋蔵文化財は一度破壊されると元に戻せないことから開発側、発掘調査側もお互の立場を理解、認識しあって発掘調査にのぞむことが大切ではないかと思います。

掛川市域においても、土地に刻まれた古代の土地区画整理である条里制遺構が包蔵される水田地帯は圃場整備事業をはじめ各種開発事業のために次第に消失してきております。

古代から開発してきた原野谷川、逆川、倉真川、垂木川の諸流域にひらけた沖積地で見られる基盤の目のように整然と区画された水田風景の多くはこうした条里制の遺りであります。

掛川市の将来の発展を考えるとき、圃場整備によって畦を取り去り広大な水田に再編成し、しだいに開発事業へと変化していくのも時代の成り行きかもしれません。

このような状況の中で、垂木川下流域の改修工事が計画されました。この流域は周知の条里制遺構などの埋蔵文化財包蔵地として、これまで考古学の立場から発掘調査をした例がないことからこのたび周到な準備を経て工事に先立ち遺構の範囲と性格を把握する確認調査を実施しました。

調査の結果現在の流域は古代から幾たびもの流路の変遷がみられ、また垂木川や逆川によって形成された沖積地と係り合い、水捌の悪い湿地帯であり、河川改修などから条里遺構をはじめ他の時代の遺構の多くは壊滅したのではないかと思われます。

とくに、条里制造跡については地籍図の地名のみが遺るのはいささか寂しい思いがします。今後古代の掛川の土地史を考えるうえで条里遺構が少なからず明らかになることを願っております。

最後にこの調査にあたり静岡県をはじめ、関係各機関の絶大なるご指導とご協力により発掘調査が滞りなく推進できましたことに深く感謝申し上げます。本書が埋蔵文化財行政の一助になれば誠に幸甚であります。

平成2年3月吉日

掛川市教育委員会

教育長 西ヶ谷兎志雄

例 言

1. 本書は、平成元年7月20日から平成2年3月31日まで実施した静岡県掛川市下垂木地先に所存する細田・沢田・黒田・善光寺・篠場遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、「二級河川太山川中小河川改修事業埋蔵文化財発掘調査業務」として、静岡県袋井土木事務所長を委託者、掛川市民を受託者として、静岡県教育委員会文化課の指導のもと掛川市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、掛川市教育委員会の戸塚和美が担当した。
4. 発掘作業ならびに整理作業には次の方々の参加を得た。
株葉たみ江・原田てい子・中村すま子・松井しか・齊藤悦子
5. 本書の執筆・編集は戸塚和美が行った。
6. 発掘調査業務は、掛川市教育委員会教育長西ヶ谷免志雄、社会教育課長安達啓、社会教育課専門官岩井克允のもと社会教育課が所管した。
7. 調査によって得た資料は、すべて掛川市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 掲図における方位は、磁北を示す。(1989年7月現在)
2. 本書掲載のグリッド配置図は1 2000・グリッド土層断面図は1 60縮尺を基本とした。

目 次

序	
例　　言	
凡　　例	
I　発掘調査と遺跡の概要	1
1. 調査に至る経緯と調査の目的	1
2. 調査の方法と経過	1
i) 調査の方法	1
ii) 調査の経過	1
3. 遺跡をめぐる環境	3
i) 地理的環境	3
ii) 歴史的環境	3
II　調査の内容	5
1. 各区の状況	5
i) 1 区の状況	9
ii) 2 区の状況	9
iii) 3 区の状況	10
iv) 4 区の状況	10
v) 5 区の状況	11
vi) 6 区の状況	11
vii) 7 区の状況	12
viii) 8 区の状況	12
III　まとめ	13

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺遺跡分布図	2
第2図	遺跡の周辺地形図	4
第3図	グリッド配置図(1)	5
第4図	グリッド配置図(2)	6
第5図	グリッド配置図(3)	6
第6図	グリッド配置図(4)	7
第7図	グリッド配置図(5)	7
第8図	グリッド配置図(6)	8
第9図	グリッド配置図(7)	8
第10図	グリッド土層断面図(1)	9
第11図	グリッド土層断面図(2)	10
第12図	グリッド土層断面図(3)	11
第13図	グリッド土層断面図(4)	12

図版目次

図版I 遺跡全景

図版II上 重機による掘削風景

中 4 グリッド土層断面

下 7 グリッド土層断面

図版III上 12グリッド土層断面

中 17グリッド土層断面

下 22グリッド土層断面

図版IV上 27グリッド土層断面

中 32グリッド土層断面

下 34グリッド土層断面

図版V上 43グリッド土層断面

中 47グリッド土層断面

下 54グリッド土層断面

図版VI上 58グリッド土層断面

中 61グリッド土層断面

下 69グリッド土層断面

図版VII上 75グリッド土層断面

中 84グリッド土層断面

下 87グリッド土層断面

図版VIII上 94グリッド土層断面

中 97グリッド土層断面

下 101グリッド土層断面

I 発掘調査と遺跡の概要

1. 調査に至る経緯と調査の目的

垂木川河川改修事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査として、既当する遺跡は沢田・細田・黒田・善光寺・篠場遺跡の6遺跡を数える。これらの6遺跡はいずれも掛川市教育委員会が行った遺跡分布調査によって明らかとなった遺跡である。採集遺物と周辺地形とで想定されたこれらの遺跡範囲は、不充分で明確なものではなかった。

今回の河川改修事業は、太田川水系の河川改修工事として昭和57年から垂木川河川改修工事が逆川との合流点より上流域へと進められているものである。過去にもこの河川改修事業に先立ち掛川市施設地内に所存する梅橋北遺跡において昭和59・62年に発掘調査が行われている。

平成元年1月31日に静岡県袋井土木事務から掛川市教育委員会へ垂木川改修事業として篠場地内の三池橋より上流の天竜浜名湖線鉄橋下までの約2.3kmの河川改修工事が知られ、一帯に分布する埋蔵文化財包蔵地についての協議依頼があった。この依頼に基づき同年2月4日に袋井土木事務所と掛川市土木課と掛川市教育委員会との三者間で改修事業計画の説明と遺跡分布状況・調査体制等について協議がもたれた。この中で今回の河川改修事業は、水害等災害の発生を防ぐために行われる事業であるため発掘調査もこの目的推進のため歩調を合わせ早急に処置するという結論に至った。そのため調査は単年度事業として年度内にすべての調査を完了させることとした。

今回の発掘調査事業は、「二級河川太田川中小河川改修事業埋蔵文化財発掘調査事業委託契約」締結をもとに、あくまでも市民の生命・財産・生活を守ること前提として、この範囲内で埋蔵文化財保護に努めることを目的として行われた。

2. 調査の方法と経過

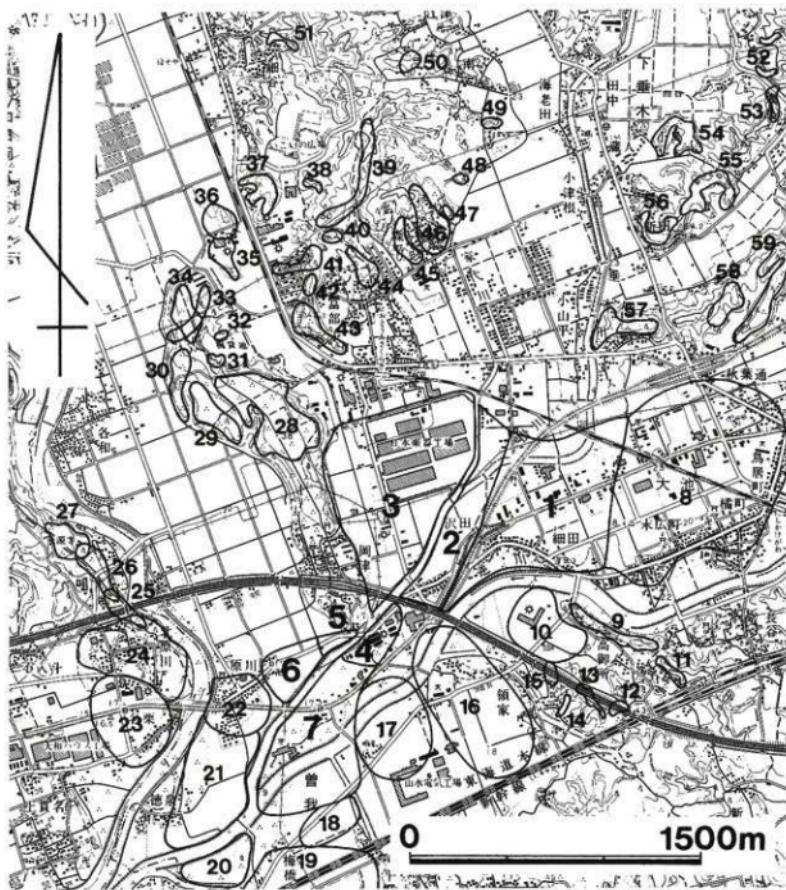
i) 調査の方法

今回調査対象となった垂木川の新提案予定区間は、片岸の総延長だけでも2.3km、幅はまちまちであるが平均15m程で総面積は27,000m²にも及ぶものであった。調査対象区域に分布する遺跡群の範囲は、不充分かつ不明確なものという当時点での把握の限界があったことより、正確な遺跡分布状況把握の手段として新提案予定区間に試掘グリッドを設定し確認調査を行うこととした。その確認調査の結果に基づき確実な遺跡部分について安全管理上可能な限り本調査することとした。

試掘グリッドの規模は4m×4m、深さ2mで、三池橋下流より算用数字を冠しそのグリッド名とした。グリッドのまとまりから8区に調査区を分けた。調査区域には10mピッチで130ヶ所に設定したが、安全管理上調査不可能な部分があったため実際に調査可能なグリッドは105ヶ所であった。グリッド掘削には、作業の安全面、迅速化等を考慮し重機を使用した。重機掘削後、人工による壁面精査を行い。土層状況、包含層の有無、遺物の出土状況等を観察し、土層図面の作成、写真撮影による記録を行った。調査終了後直ちに各グリッドを埋め戻し、安全対策には万全を期した。

ii) 調査の経過

調査に先立ち袋井土木事務所立ち会いのもと各調査区域を確認した後、7月20日、第1区に試掘グリッドを設定、調査を開始する。第1区はほとんどが荒廃地でアシ・ヨシ等の伐採から始めた。調査



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡分布図

1. 細田 2. 沢田 3. 黒田 4. コリトリ 5. 善光寺 6. 三ッ池 7. 篠場 8. 大池 9. 前坪古墳群 10. 前坪 11. 浅間神社古墳群 12. 東照ケ谷古墳群 13. 本村横穴群 14. 屋敷越横穴群 15. 屋敷越古墳群 16. 領家 17. 曾我後 18. 平野 19. 梅橋 20. 徳泉 21. 梅橋北 22. 原川 23. 坂尻 24. 原川城・石ノ形 25. 宇佐八幡宮古墳群 26. 山下 27. 鶴松 28. 岡津原Ⅲ 29. 岡津原IV 30. 岡津原II 31. 梶貸横穴群 32. 梶貸古墳群 33. 旗指古墳群 34. 岡津原I 35. 高代山古墳群 36. 高代山表 37. 山崎 38. 土橋横穴群 39. 長沢古墳群 40. 富部古墳群 41. 塚田谷古墳群 42. 枕田古墳群 43. 富部城・二反田 44. 富部 45. 森平 46. 森平城 47. 赤瀬南 48. 赤瀬 49. 桶田 50. 蟹沢古墳群 51. 堂前 52. 鰐原横穴群 53. 飛鳥横穴群 54. 小島 55. 蔵人古墳群 56. 蔵人 57. 小山平 58. 源ヶ谷 59. 六ノ坪

は雨天続きでその排水には苦慮した。9月1日～15日、第7区の調査。雨による試掘グリッド崩落が相次いだ。9月16日～10月2日、第6区の調査。湧水による崩落も少なく比較的順調であった。10月3日～7日、第4・5区の調査。比較的まとまって遺物が検出されたため部分的に拡張して調査。10月8日～29日、第8区の調査をもってすべて現地作業を終了した。

3. 遺跡をめぐる環境

i) 地理的環境

垂木川は掛川市上垂木に源流を発し、市内西部を南流し掛川市曾我で合流するまで全長6kmを測る。原野谷川の形成した冲積地を垂木川は流れるが、原野谷川・逆川の旧流路によって形成された自然堤防上の微高地の影響を受けている。特に下流域ではその自然堤防によって流路がさえぎられる形となるため一旦大雨に見舞われれば、洪水を起こす常習地域もある。

周辺地形は、原野谷川の西側には各和段丘、水田地帯を隔てて東側には岡津段丘がそれぞれ伸び、更にその東側では広い水田地帯が広がる。

ii) 歴史的環境

ここでは原野谷川流域の弥生時代から奈良・平安時代の様相をみてみよう。

吉岡原・高田原・各和原の河岸段丘上と、原川・梅橋・領家等の冲積地の自然堤防上に弥生時代中期に成立する遺跡が認められる。前者の主な遺跡としては弥生時代中期前葉の土器棺墓を検出した原川遺跡、後者では弥生時代中期中葉の方形周溝墓群から成る山下遺跡があげられる。

弥生時代後期になるとその数は急激に増加する。特に河岸段丘上の吉岡原・高田原では広範囲に集落が展開されるものもある。古墳時代中期まで継続するものもあるが、ほぼ古墳時代前期までの継続である。

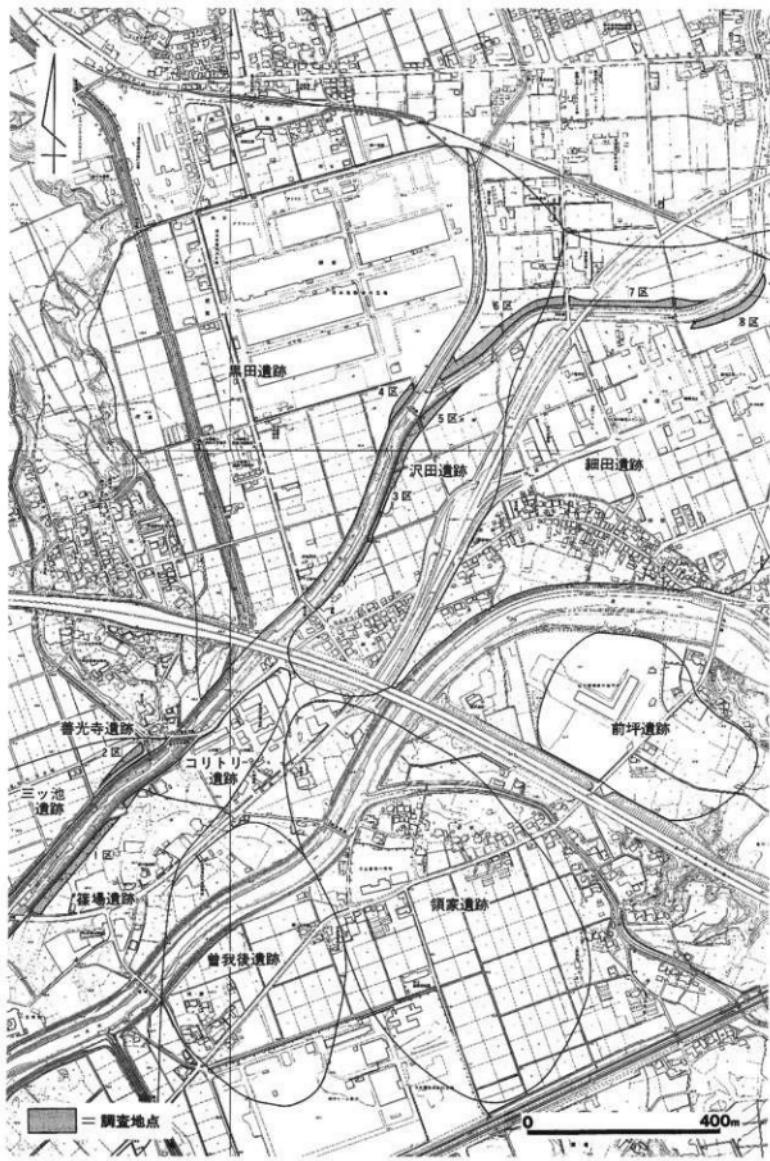
古墳時代中期は各和金塚古墳・高田瓢塚古墳・吉岡大塚古墳などの前方後円墳や春林院古墳などの円墳を中心とした和田岡古墳群が造営される。

古墳時代後期には当地域の特色である大規模な横穴群が多数造営される。最近ではこれらの横穴群の成立基盤となった集落として、立地・年代等により原川遺跡や坂尻遺跡との関連が検討されている。

奈良時代から平安時代にかけては、原野谷川西岸に佐野郡衙跡と考えられる坂尻遺跡があり多数の堀立柱建物跡群・墨書き土器、その他同開珎・帶金具・銅印・分銅などを検出している。坂尻遺跡に隣接する梅橋北遺跡や原川遺跡からも綠釉陶器・墨書き土器などの遺物もみられ、郡衙坂尻遺跡に関連する遺跡と推定されている。

引用・参考文献

- (1) 加藤芳朗 「原川遺跡をめぐる地形・地質・土壤学的背景」『原川遺跡 I』
静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988
- (2) 平野吾郎・鈴木基之 「原川遺跡 I」 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988
- (3) 平野吾郎・佐藤正知他 「梅橋北遺跡」 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988
- (4) 掛川市教育委員会 「掛川市遺跡分布調査報告 I・II」 1984
- (5) 松本一男・篠原修二 「梅橋北遺跡」 掛川市教育委員会 1985



第2図 遺跡の周辺地形図

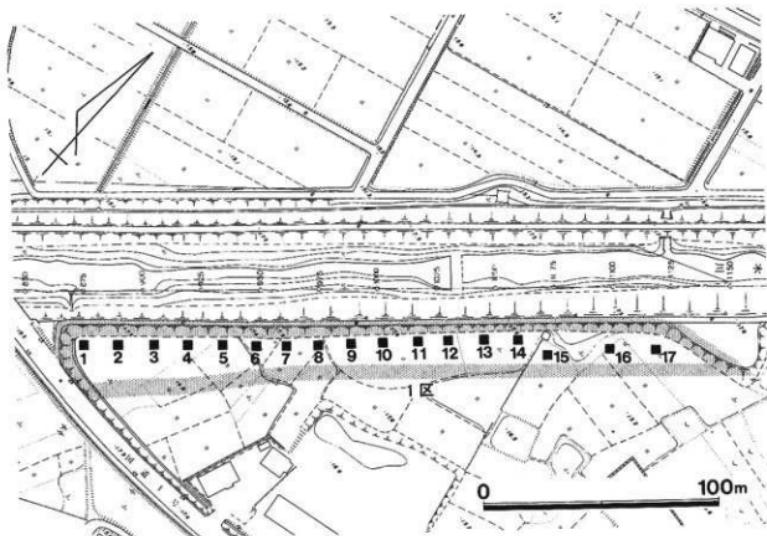
II 調査の内容

1. 各区の状況

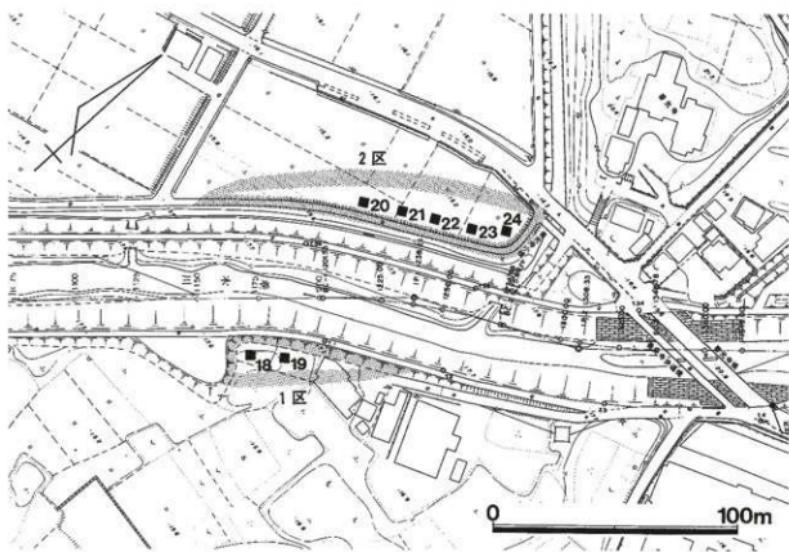
調査区内では105ヶ所の試掘グリッドを調査した。その結果、遺構はすべてのグリッドで確認されず、遺物についても確認されたグリッドはわずかであった。確認された遺物は、土師質の土器（土師器・かわらけ等）、須恵器・陶器等であるがいずれも小破片でしかも摩滅が著しく詳細な器種・時代は不明である。これらの土器片の出土層は、砂疊層上面付近のものが多く流れ込みによる混入と考えられる。

多くのグリッドで砂層及び砂疊層の堆積が確認されていることから少なくとも旧垂木川の影響を受けていると思われる。しかし場所によっては遺物が比較的まとまって検出される部分もあり周辺域に遺跡の存在する可能性もある。

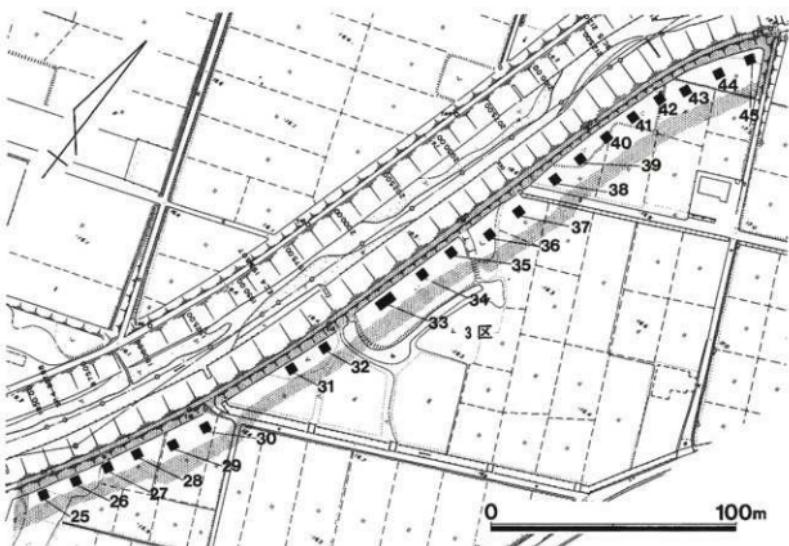
以下各区のグリッドの説明していくが、調査範囲は河川流路に沿って2.3kmにも及ぶため調査したグリッドは105ヶ所を数える。グリッドのまとまりから調査区を8区に分け、その各区の基本土層なるグリッドを中心に説明する。尚、まとめられたグリッドは遺跡名で分けた場合、複数の遺跡が該当してしまった箇所があり、説明上の混乱を避けるため遺跡名の使用はしないこととする。



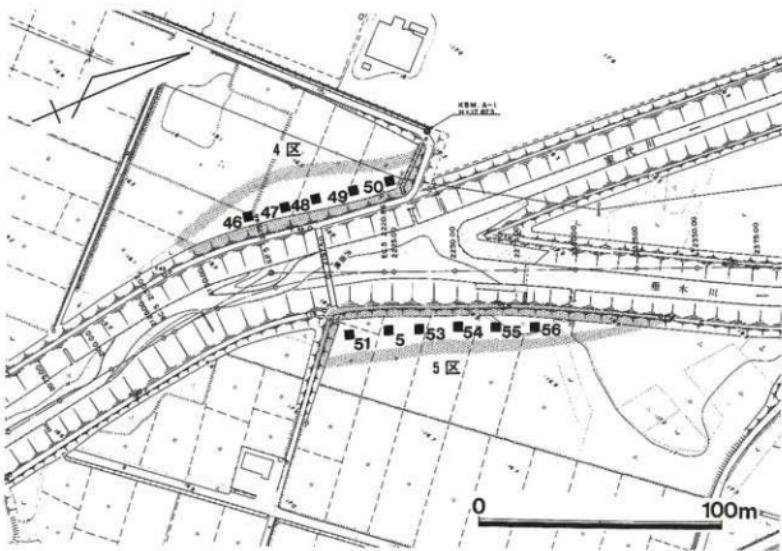
第3図 グリッド配置図(1)



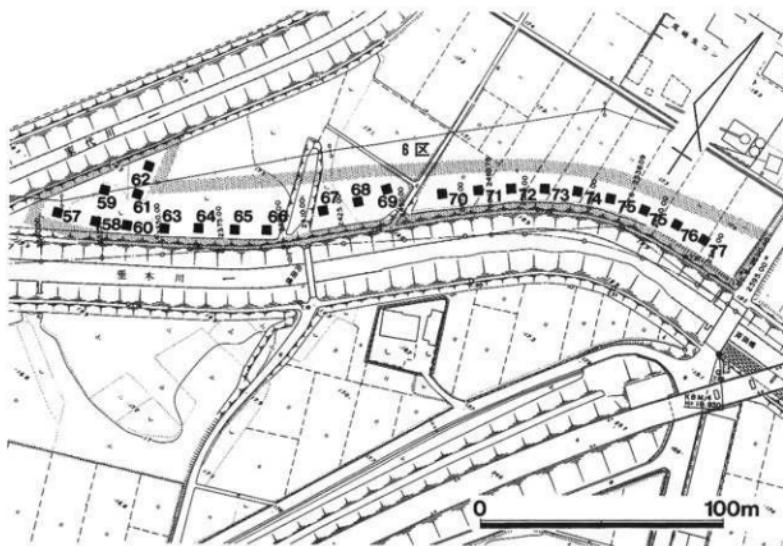
第4図 グリッド配置図(2)



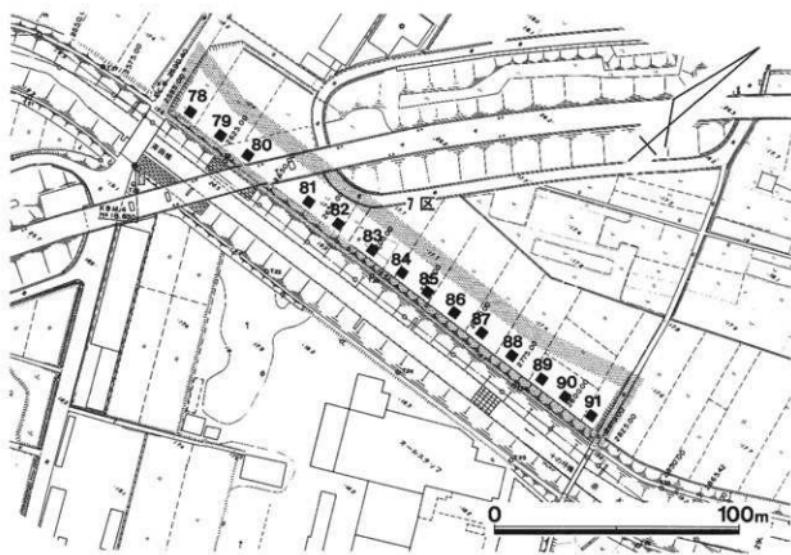
第5図 グリッド配置図(3)



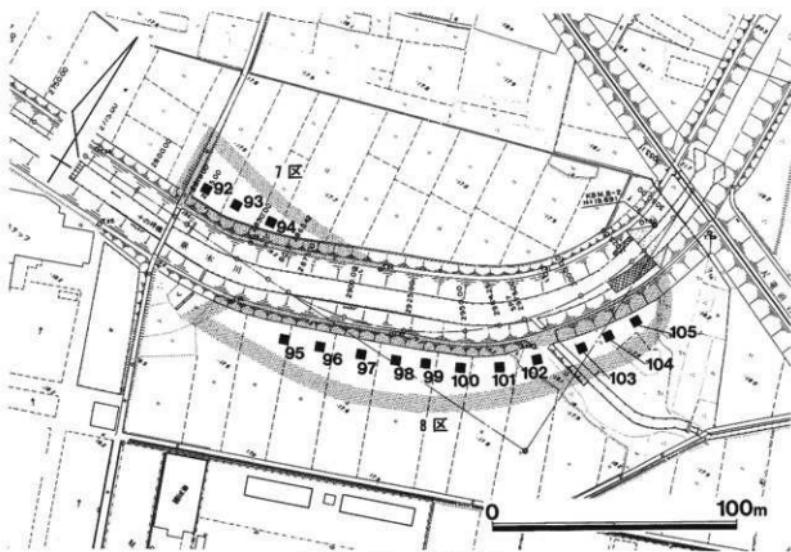
第6図 グリッド配置図(4)



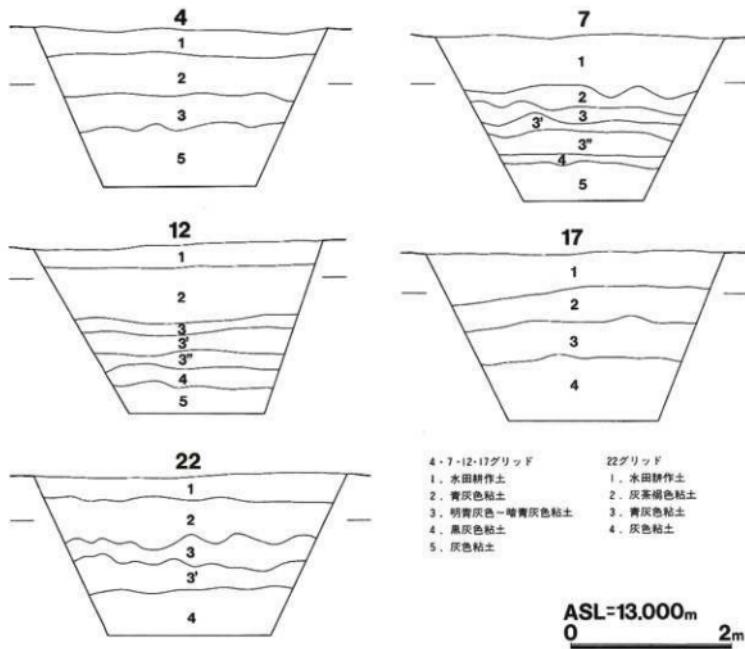
第7図 グリッド配置図(5)



第8図 グリッド配置図(6)



第9図 グリッド配置図(7)



第10図 グリッド土層断面図(1)

i) 1区の状況 (第2・3・4・10図)

1区の各グリッドの堆積状況は、4・7・12・17グリッドに代表される。

基本土層として17グリッドの堆積状況を示すと、第1層：水田耕作土、第2層：青灰色粘土（斑鉄が多い量に含まれる）、第3層：明青灰色～暗青灰色粘土（下層ほど斑鉄が多く褐色を呈す）、第4層：黒灰色粘土（マンガン粒・斑鉄を少量含む）、第5層：灰色粘土（炭化粒子を少量含む）。

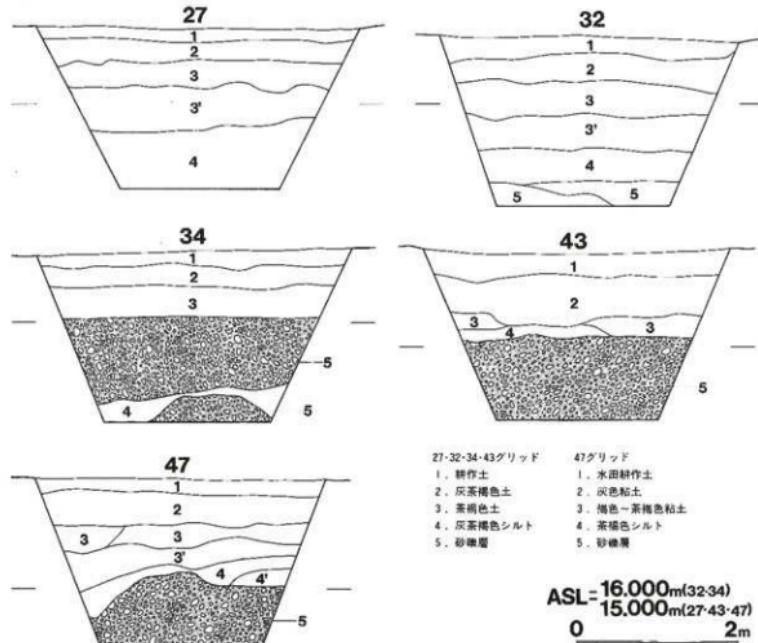
土色だけみれば各グリッドほとんど同じでほぼ水平な堆積を示す。砂礫層までは確認できなかった。

ii) 2区の状況 (第2・4・10図)

2区では22グリッドを基本土層として堆積状況を示す。

第1層：水田耕作土、第2層：灰茶褐色粘土（斑鉄を含む。シルト質の部分もある）、第3層：青灰色粘土（堅固な粘土で部分的にシルトが混在する）、第4層：灰色粘土（黒色粘土と未分解の植物遺体が泥灰層を形成する）。

全体に混入物を多く含む汚れた粘土が堆積する。特に3～4層にかけてはいずれのグリッドも堆積が不安定でシルトの混入がみられた。



第11図 グリッド土層断面図(2)

iii) 3区の状況 (第2・5・11図)

3区の堆積状況は、27・32・34・43グリッドに代表される。

基本土層として32グリッドの堆積状況を示すと、第1層：耕作土（水田の他に畑部分もある）、第2層：灰茶褐色土（斑鉄を少量含む）、第3層：茶褐色土（小砂利を少量含む）、第4層：灰茶褐色シルト（全体にしまりが弱い。砂礫と瓦層を成す部分もある）、第5層：砂礫層（主にシルト～微砂～細礫が互層を成す。25～30グリッドではグリッド最下面で確認された）。

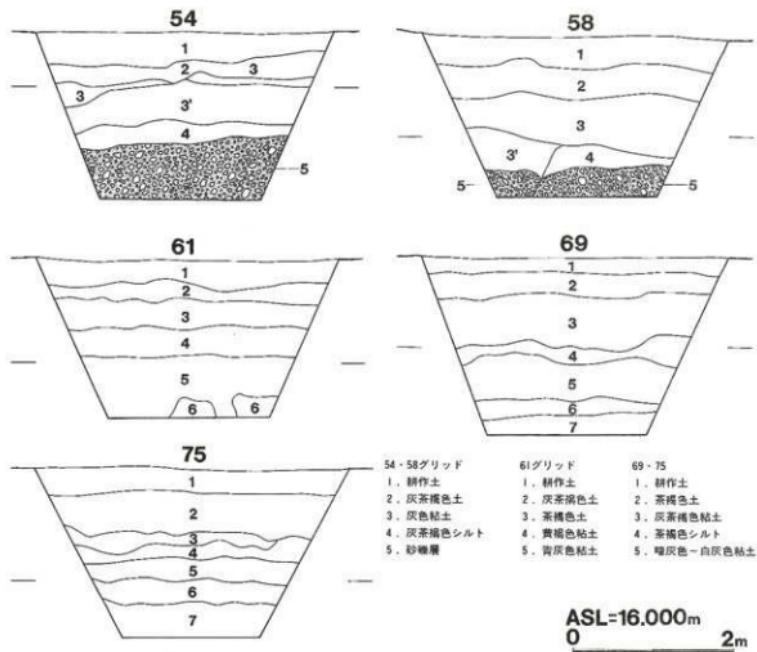
すべてのグリッドで砂礫層が確認された。特に33グリッド以北では比較的高いレベルで確認された。32・41グリッドで土器片が確認されたが、砂礫層直上で摩滅が著しいものであった。

iv) 4区の状況 (第2・6・11図)

4区では47グリッドを基本土層として堆積状況を示す。

第1層：水田耕作土、第2層：灰色粘土（小砂利を少量含む）、第3層：褐色～茶褐色粘土（マンガニン粒を少量含む。部分的にシルト質を帯びる）、第4層：茶褐色シルト（下層では砂質を帯びる）、第5層：砂礫層。

この47グリッドを境に北側では砂礫のレベルは低くなるか、または確認できる。すべてのグリッドで遺物が確認された。量的には比較的まとまりがあり摩滅も少ない。



第12図 グリッド土層断面図(3)

v) 5区の状況 (第2・6・12図)

5区では基本土層として54グリッドの堆積状況を示す。第1層：耕作土、第2層：灰茶褐色土（斑鉄を少量含む）、第3層：灰色粘土（斑鉄を多量に含む。ややシルト質を帯びる）、第4層：灰茶褐色シルト（斑鉄を多量に含む）、第5層：砂礫層（シルトとの互層を成す）。

基本的には4区の堆積状況と同じである。54～56グリッドより土器片が確認されたが、摩滅の著しいものであった。

vi) 6区の状況 (第2・7・12図)

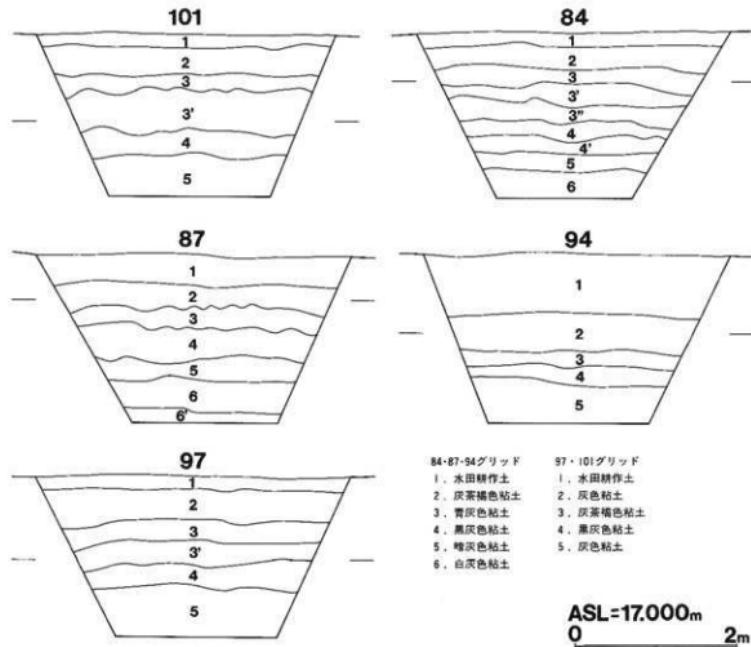
6区では61・69・75グリッドを基本土層として堆積状況を示す。

61グリッド——第1層：耕作土、第2層：灰茶褐色土（斑鉄を含む）、第3層：茶褐色土（マンガン粒を多量に含む）、第4層：黄褐色粘土（斑鉄を含む）、第5層：青灰色粘土（粘性非常に強い）。

周辺グリッドからも比較的まとまった遺物が検出された。

69・75グリッド——第1層：耕作土、第2層：茶褐色土（斑鉄を少量含む）、第3層：灰茶褐色粘土（粘性の強い層）、第4層：茶褐色シルト（斑鉄を多量に含む）、第5層：暗灰色～白灰色粘土（下層では泥灰層のようである）。

全体に粘性が強くほぼ水平な堆積を示す。遺物は確認されなかった。



第13図 グリット土層断面図(4)

vii) 7区の状況 (第2・8・9・13図)

7区の堆積状況は84・87・94グリッドに代表される。

基本土層として87グリッドの堆積状況を示すと、第1層：水山耕作土、第2層：灰茶褐色粘土（斑鉄を少量含む）、第3層：青灰色粘土（マンガン粒を少量含む）、第4層：黒灰色粘土（灰色粘土と互層を成す）、第5層：暗灰色粘土（未分解の植物遺体を含む泥灰層）、第6層：白灰色粘土（シルト層を帯びた層）。

ほぼ水平な堆積を示す。遺物は確認されなかった。

viii) 8区の状況 (第2・9・13図)

8区の堆積状況は97・101グリッドに代表される。

基本上層として101グリッド堆積状況を示すと、第1層：水田耕作土、第2層：灰色粘土（斑鉄を少量含む）、第3層：灰茶褐色粘土（斑鉄・小砂利を少量含む）、第4層：黒灰色粘土（未分解の植物遺体を含む泥灰層）、第5層：灰色粘土（部分的に白色粘土を含む）。

全体的に7区と同様の堆積が認められる。遺物は確認されなかった。

III まとめ

調査の結果、8区すべてのグリッドで遺構は検出できなかった。遺物はいくつかのグリッドで検出されたが、砂礫上面付近に含まれるものでいずれも小破片で摩滅の著しいものであった。当然のことながら遺構に伴うものではなく流れ込みによる混入と考えられる。

多くのグリッドで砂層及び砂礫層が確認されていることからも少なからず旧垂木川の影響を受けていたようである。古代より原野谷川とその支流は幾たびか流路を変遷させたことが、現地に残る蛇行路跡や発掘調査の結果から推定される。かつて原川遺跡・梅橋北遺跡の調査で、原野谷川・逆川・垂木川の大正から昭和にかけての大改修前の旧路跡や現地に残る蛇行流路から古代の自然景観の復元が試みられている。そしてそこでは各遺跡の立地について、主に集落址としての遺跡は河川の描く弧の内側、標高16~17m付近に立地するという興味深い指摘がなされた。言い換れば、遺跡は河川によって形成された自然堤防に立地し、逆にその自然堤防に伴う後背低地では遺跡は確認されないとことなる。

さて今回調査した垂木川流域はどうであろうか。よく発達した逆川の自然堤防に比べ垂木川は規模が小さく旧流路からも蛇行も小さい。そのため自然堤防の発達は弱い。

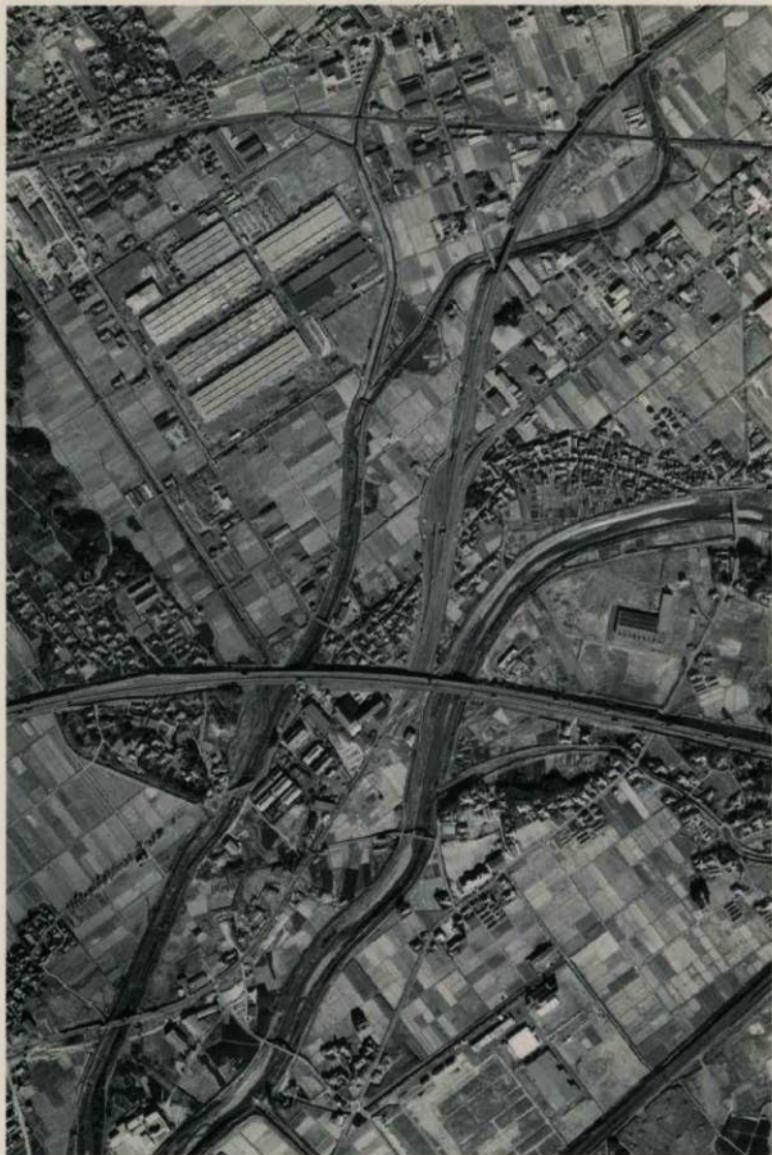
以前よりこの垂木川流域には遺跡存在の可能性は薄いと言われてきた。今回の調査によって不充分ではあるが初めてこの垂木川流域に考古学のメスが入れられた。その結果は先の指摘を首肯すべく、自然堤防と考えられる微高地は検出されず集落を中心として遺跡の発見はできなかった。しかし調査は安全管理上の限界が大きく、必ずしも調査結果と首肯した内容とが有機的に関連しているとは言い難い。いずれにせよ冒頭でも述べたが、垂木川流域に分布する遺跡範囲は不明確なものである。今回の調査結果を踏まえ、遺跡範囲については再検討の必要があろう。

最後に若干の問題を提起してこのまとめをしたい。調査区の中でも第4・6区においては比較的まとった遺物が検出された。あくまでも他の区と比べてではあるが、決して良好な包含層や遺物は確認できなかったが、4区北側から家代川合流点付近には遺跡存在の可能性が考えられなくもない。この周辺地域に存在しないとしてもこれらの遺物の帰属する遺跡を考えた場合、少なからず垂木川流域は無視できないものと考えられる。このことは原野谷川・逆川の未だ調査されていない中流から上流域にかけての沖積地についても同様であろう。今後の調査に期待したい。

引用・参考文献

- (1) 加藤芳朗 「原川遺跡をめぐる地形・地質・土壤学的背景」『原川遺跡 I』
静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988
- (2) 平野哲郎・鈴木基之 『原川遺跡 I』 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988
- (3) 平野哲郎・佐藤正知他 『梅橋北遺跡』 静岡県埋蔵文化財調査研究所 1988
- (4) 松本一男・篠原修二 『梅橋北遺跡』 掛川市教育委員会 1985

図 版



遺跡全景



重機による
掘削風景



4 グリッド
土層断面



7 グリッド
土層断面

図版
III



12グリッド
土層断面



17グリッド
土層断面



22グリッド
土層断面



27グリッド
土層断面



32グリッド
土層断面



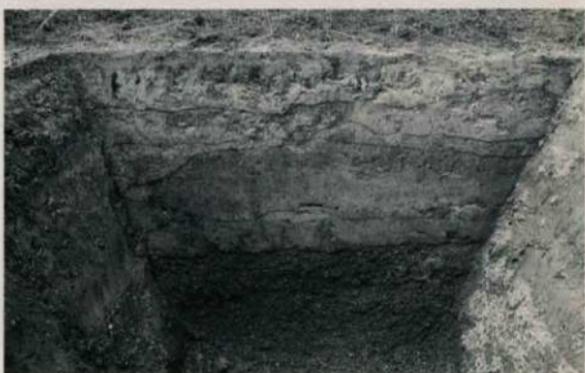
34グリッド
土層断面



43グリッド
土層断面



47グリッド
土層断面



54グリッド
土層断面

図版
VI

58グリッド
土層断面



61グリッド
土層断面



69グリッド
土層断面





75グリッド
土層断面



84グリッド
土層断面



87グリッド
土層断面



94グリッド
土層断面



97グリッド
土層断面



101グリッド
土層断面

二級河川太田川中小河川改修事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成2年3月31日

編集発行 掛川市教育委員会
掛川市水垂51
TEL (0537) 24-7773

印刷所 株式会社 三 創
静岡市中村町166-1
TEL (054) 282-4031

